

「忍耐のオリーブ」 ～種を蒔いていますか？～

伝11：1～8

詩23：1～7

最近、自動車教習所では「自己中心的な傾向のある人」というタイトルのビデオを見せるそうです。それは自分のとっている行動は客観的にみて正しい行動なのかを判断できない人が多いからという理由からです。私たちは自分のことを自分で正しく判断できているのでしょうか。自分だけ生きているのであれば、自己研鑽の必要はありません。しかし私たちは1人では生きていません。むしろ多くの人と関わりながら生きています。聖書では自分のごとく、私たちの周りにいる人々を愛しなさいと言われていました。それは私たちが神に愛されているように、周りにいる隣人も愛されているということであり、私たちは互いに愛するときお互いに幸せになるからです。私たちは神を愛しているならば、神が愛している隣人も愛するようになります。では原罪とも言える自己中心はなぜ起こるのでしょうか。その自己中心的な行動が起こってしまう時はどのような状況でしょうか。それは私たちが何か不足を感じる時ではないでしょうか。そして何か責められているように感じる時も自己防衛からそのような行動に出てしまいがちです。すなわち私たちはその状況において忍耐することができないと自己中心的な行動に出てしまうのです。私たちは聖書を通して自分を分析し、それが正しいのか正しくないことなのかを見極めることができる特権が与えられているのです。私たちは神さまから素晴らしい賜物が与えられていますが、使い方を知らないと使えません。（伝11：1～8）聖書に出ている植物で忍耐を表すものはオリーブです。オリーブには「後の勝利」という意味があり、後の勝利の後には栄光があるといわれています。オリーブの価値として、実は1g1円以下です。オリーブ油にすると1g10円位に価値が増し加わります。それは搾るという苦しい行程を経ることによって価値が増し加わるのです。（詩篇23）当時、羊飼いの杖はオリーブの木からつくられています。私たちは杖と聞くとき羊を叩くためであると想像していません。言う事を聞かない羊を叩いて教えるかと思っているかもしれませんが、しかし杖は羊をたたくためではなく、羊が水を飲むときに使うのです。羊は目が弱いとき水を飲むときに水の中に入ってしまう場合があります。そして羊飼いはその水場が浅いのか深いのかを調べるために杖を用いました。羊を育てていくには忍耐がありました。私たちは物事を進める時はよく忍耐の期間があります。そこであきらめず耐えに耐えていくとき、必ず実りがあり「後の勝利」から神の栄光を見る事ができるのです。伝11：1には水の上にパンを投げるような一見無意味のように思えることも忍耐して行く時、必ず実りを見る事ができると教えています。私たちは水の上にパンを投じているのでしょうか。無駄に見えるようなことも喜んでしているのでしょうか。神さまの元にくると私たちが求めているものがこの世の権力や力や地位やお金や能力で得られるものに目標をおいていたのかが分かります。神の元にくると能力では買えない、お金でも買えない、喜びや感謝や平安を得る事ができることがわかります。それを得るには無駄に思えることをやってみないといけません。お金などで得られるものはすぐ結果がきます。本当の愛や喜びや平安というものは人間的に何かをしたからといって得られるものではありません。それは自分で立ち、自分の道を進むときに初めて得られるものなのです。その道は平坦な道ではないかもしれませんが、私たちがその道を忍耐をもって進むのが神の道であり私たち自身の歩みなのです。その道にいないと周りからの声に傷ついたり、周りの人の行動をみて腹がたったりするのです。そしてそれを回避するには昔ながらの生き方である権力やお金に頼るような行動にでます。そこには解決がないため、あきらめや失望、落胆になっていくのです。詩篇23編はダビデが幸せな状況で書かれたものではありません。生涯の中で1番辛い状況の時に書かれ「恵みと慈しみが私を追ってくる」と告白しているのです。だからこそ、私たちは神にあってあきらめず、忍耐しなければいけません。この忍耐の道に入れない人は自己中心の道に入っていくのです。オリーブは実を実らすと木を叩かれて収穫されます。そしてその実を絞りにかけ、油が得られるのです。まるでイエスキリストの様であり、自らの体にむちを打たれて十字架へむかっていく姿に見えます。そして絞られた油が聖霊様を象徴しています。私たちはイエスに習うものとしてこの忍耐する道を歩んでいかなければいけません。ダビデは詩篇119編において「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。」と記しています。ダビデは苦しみの先には必ず幸せが待っていると神への信仰があったので、今の苦しみを忍耐することができました。①**すべては必然的であり、力で得られないものを！！**今、私たちが通っている道には過去様々なことがありました。しかし、神様はすべてを益として下さろうとしています。たとえ、私たちが自らで外的を外す人生となっても神様は私たちを愛し、捉えて正しい道へと戻してくれました。それであれば、私たちは文句を言うてはいけません。私たちが戻ってこれたのはいろいろな人が関わってくださったからです。しかしその方へも文句をいっていないのでしょうか。しかし忍耐していくとき、私たちは将来を見る事ができるのです。②**エゴイストになるな！！**エゴイストとはなんなのでしょうか。辞書によれば、自分の利益だけをもとめる、相手の利害を理解しないことです。まさしくエゴイストとは自己中心です。自分はきずつくのに、周りはきずつかないと思っていないのでしょうか。また自分だけ楽をしようとするものと同じです。私たちはエゴイストを捨てて、毎日種を蒔き続けたいといけません。この種は神さま用意してくださいと聖書には書いてあります。蒔くものはあるのに、蒔かないのは私たちです。蒔かなければ何も変化はありません。そのような中で私たちは自分が自己中心だと気づくのです。そして周りの方々の自己中心にも気づいていくことができるのです。そうすると教会に集まっている人は自己中心的な人たちばかり…かもしれません。それでも愛し合えるというのは奇跡なのです。③**自己結束から自己超越へ。**自己中心では結果を得る事はできません。私たちは自分に言い聞かせながら正しい道を歩むように言われています。神は私たちに志をたてさせ、また神の力によってさせて下さろうとします。しかし私たちは与えられた志を自力でなしとげようとしてしまいます。そのまま歩いていくと、周りにいる人々にも同じ事をしてしまいます。私がやっているのだから、やりなさいというようになってしまいます。ですから私たちは自己結束型ではいけないのです。私たちは多くの実を結ぶ事ができます。それまでオリーブのように忍耐して種を蒔き続けたいといけません。今週は時がよくても悪くても忍耐しながらしっかりと蒔いていきましょう。（要約者：平澤 一浩）